

ブラジルの赤色花崗岩や青色花崗岩の片割れはどこ？

パンゲア超大陸が分裂する前は、南米とアフリカは隣接していたので、ブラジル東部の赤色花崗岩や青色花崗岩は中央アフリカのカメルーンにあるかもしれません。逆にアンゴラの灰黒色ガブロやナミビアの黄色花崗岩と同じような石は、ブラジル南部で見つかるかもしれません。石材の故郷から、大昔の地球の歴史を考えるのも“創知”（科学と芸術の融合）です。

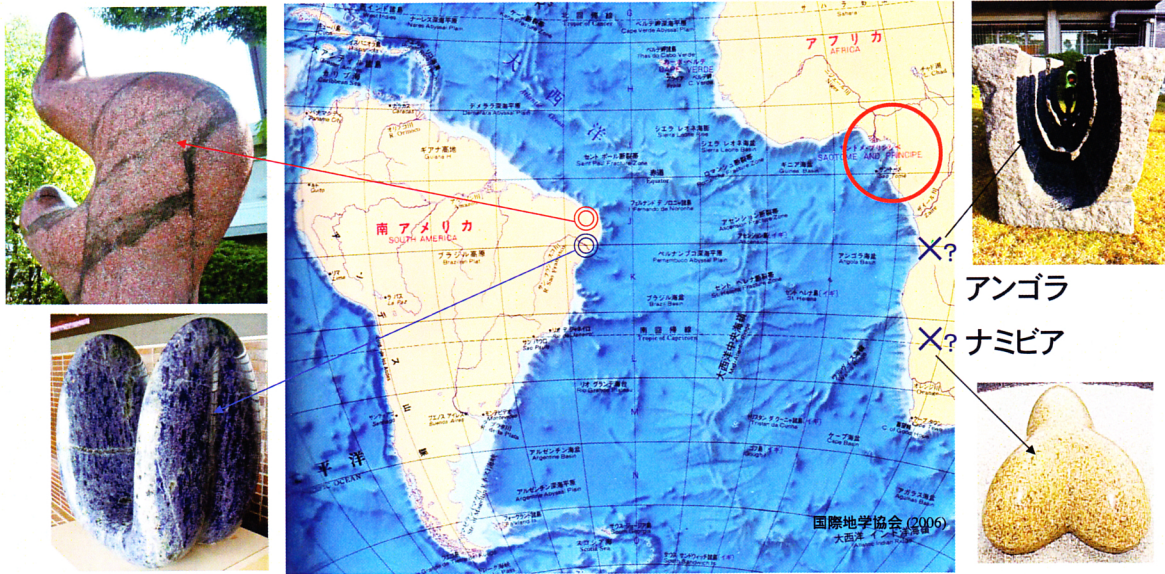


図 14. 赤色花崗岩・青色花崗岩の片割れはどこ？

約2億年前の南米とアフリカ

現在のプレートテクトニクスは、ドイツのウエゲナーの大陸移動説(A. Wegener, 1912)が基になっています。ウエゲナーは南米の東海岸とアフリカの西海岸の海岸線がよく似た形をしていることに気づいて、もともとは一つであった“パンゲア超大陸”の一部であった南米とアフリカの両大陸が離れて今の南大西洋ができた、つまり「大陸が移動した」と直感しました。

ウエゲナーは当時の地質学の様々なデータ(例えば、古生代の氷河堆積物、ゴンドワナ植物化石、中生代のトカゲの化石の分布など)を研究して大陸移動説を提唱しましたが、受け入れられませんでした。大陸移動説は、1960年代後半の地磁気の研究などから復活し、プレートテクトニクスに生まれ変わりました。

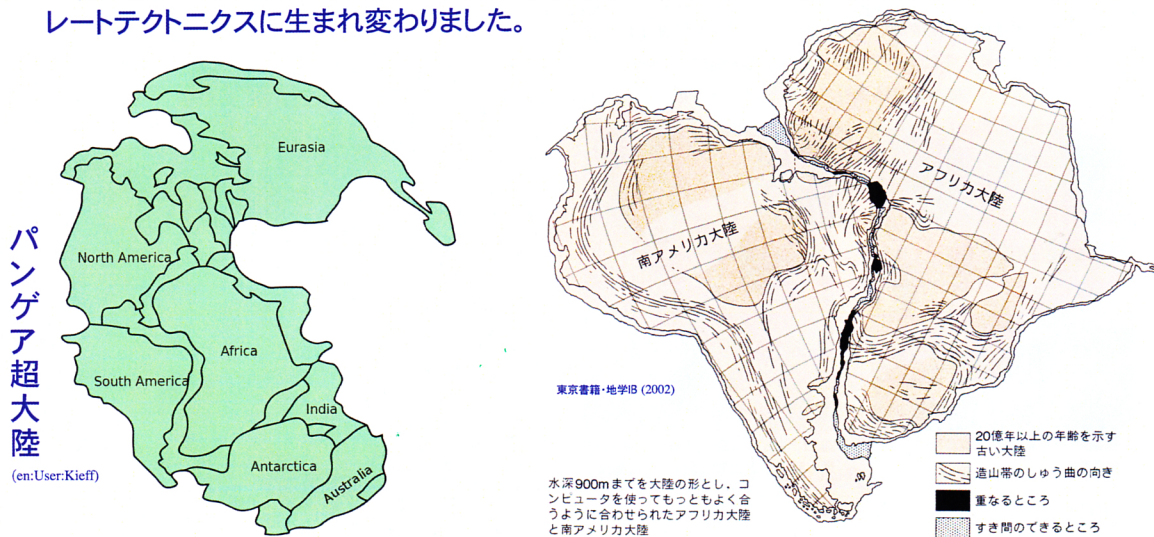


図 15. ジュラ紀に起こったゴンドワナ大陸の分裂。